

3月の安心かわら版

3月の主な行事

3日	:	ひなまつり	20日	:	春分の日
5日	:	啓蟄	23日	:	世界気象デー
18日	:	彼岸入り	24日	:	彼岸明け



知ってる? 雪災から身を守る対策

雪災とは



気圧配置や上空の強い寒気等によって積乱雲が発達し、大雪が降ると、積雪や凍結により、転倒・骨折・転落事故をはじめとする雪災を引き起こす要因になります。ほかにも線路・道路・滑走路等が埋没することによって起きる交通災害や、家屋や樹木が雪圧によって損壊するといった危険があります。

雪災の覚えておくべき5つの特徴

- ① 地上で雪が降る気温の目安は、地上付近で3℃以下、上空1,500m付近で-6℃以下とされている。
- ② 大雪には、山沿いで大雪になる山雪型、海岸や平野部でも大雪になる里雪型がある。
- ③ 地球温暖化の影響で、雲が発達しやすくなり、冬場の豪雪が増えると予測されている。
- ④ 屋根に積もった約50センチの雪は、軽自動車13台分ほどの重さにあたる。
※建坪20坪(66平方メートル)の家の場合。
- ⑤ 屋根雪は、降雪で密度が増え、見た目が変わらなくても重量が増えていくことがある。



積雪や凍結による事故から身を守る。雪災に備えよう

事前準備 雪下ろしを行う前に、作業環境や天候に注意する

雪下ろし作業は、家族や近所の人にも声をかけて、必ず2人以上で行うようにしましょう。気温上昇時は屋根の雪がゆるみやすいため、晴れの日ほど注意が必要です。低い屋根でも油断はせずに、建物の周りに雪を残し、面倒でも命綱とヘルメットを着用して雪下ろしを行うようにしましょう。

事前準備 車の運転前に、路面やタイヤを確認する

道路の降雪が1センチ以上になり、「白い光沢」に見えるときは表面が凍って滑りやすくなるため、車の運転は大変危険です。さらに路面が「透明または黒く」見えたときは、アイスバーンの危険があります。冬用タイヤの装着等、防滑措置を取り、スピードダウン、車間距離の確保を心掛けましょう。

事前準備 カーポートの耐雪性を確認し、事前に雪下ろしをする

自宅のカーポートがどれくらいの積雪に耐えられるか、耐雪性を事前にチェックしてみましょう。関東から東海、西日本にかけては、積雪20センチまで耐性があるタイプが多く、また雪が多い地域では、積雪50センチ以上の耐性があるタイプが使われています。カーポートの種類によって規定積雪に達する前に雪下ろしを行うようにしましょう。

発災直後 雪道では、転びにくい歩き方をする

雪道を歩くときは、ペンギンのように歩幅を小さくして歩くようにすると、体の揺れが小さくなり、転びにくくなります。また、つるつると滑りやすい路面では、滑りにくい靴底の履物を選び、できるだけ靴の裏全体を路面に付けるようにして、体の重心をやや前において歩くようにしましょう。

秩父支店スタッフ ~よろしくお願ひします~



レジアスインパクト(株)秩父支店
chichibu@rezeous.co.jp

〒368-0024 埼玉県秩父市上宮地町26-21
TEL 0494-27-3210 FAX 0494-26-6555

事務所の電話番号も登録お願ひします!